

生成AIの利活用に関する学生向けガイドライン 第2.0版

2026/04/15 更新

教育推進本部

改版履歴

日付	版数	履歴
2026/04/15	2.0版	<ul style="list-style-type: none">本学で利用可能なツール、および、チェックリストを追加初版の内容を改訂
2024/03/04	初版	<ul style="list-style-type: none">初版作成

はじめに

近年、ChatGPTに代表される生成AIは社会に広く浸透し、学生の皆さんにとっても、今や日常の学習や生活に欠かせないツールとなっています。また、生成AIの急速な進化によってますます便利になる一方で、生成AIへの過度な依存は「自ら考え、学ぶ機会」を奪い、皆さんの成長や信頼を損なうリスクも孕んでいます。

そこで、本学での学業や研究において、皆さんが生成AIを有効かつ安全に活用できるよう、本ガイドラインを作成しました。生成AIの利用にあたっては、このガイドラインを参考にしながら、一人ひとりが責任感を持って賢明な判断を下せるようになることを願っています。

なお、本学とは無関係な場面での利用にあたっては、本ガイドラインに書かれた内容を参考にしてください。

目次

1. 基本的な考え方	P.4
2. 利用ツール	P.5
3. 活用方法	P.10
4. 禁止事項	P.11
5. 相談先	P.12
6. 利用時の注意事項	P.13
7. チェックリスト	P.16

1. 基本的な考え方

本学での学業や研究に関わる生成AIの利活用について、基本的な考え方を、以下にまとめます。

- (利用) 本学が提供する生成AIツールを利用する (← 2.0版 新規追加)
- (活用) 学びや研究を深めるため、また、その効率を高めるために活用する
- (禁止) 学問的誠実性に反する利用は行わない
- (相談) 利用して良いか迷ったら、授業担当教員 (or 研究指導教員) に相談する
- (注意) 生成AIに関する一般的注意事項を踏まえて利用する

次ページ以降に詳細を示します。

2. 利用ツール

本学が提供する生成AIツールを利用する

生成AIツールは、**本学が提供する「Microsoft 365 Copilot」**，「**Google Workspace Gemini, NotebookLM**」の利用を**強く推奨**します。使用にあたっては、以下の注意事項を守ってください。

① 本学のアカウントでログインした状態で利用すること

本学のアカウントでログインしていれば、プロンプトに入力したデータがAIの学習や他人への回答に使われることはありません（「**オプトアウト**」設定済）。これにより、個人情報流出や他者権利侵害のリスクを最小限に抑えることができます。

なお、**非公式アプリやブラウザ拡張機能経由で利用した場合は、上記の設定が効かない可能性**があります。これらの使用は避け、**公式Web / 公式アプリ**を利用するようにしてください。

② 原則として、生成AIとのやり取りの履歴は消さずに、残しておくこと

ログインしていれば、意図的に消さない限り、生成AIとのやり取りが履歴として残ります。のちに、学問的誠実性に反する利用、著作権侵害などが疑われた場合に、自ら**説明責任**を果たすことができるよう、履歴は残しておくようにしてください。

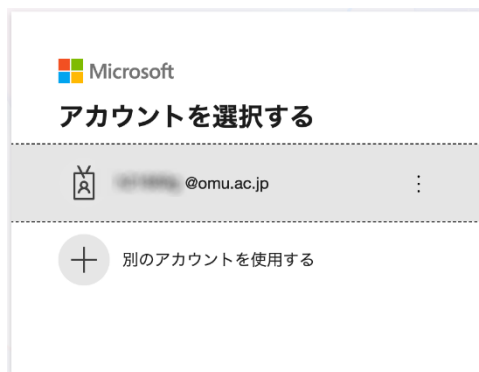
次頁以降に、各ツールへのアクセス方法を示します。

2. 利用ツール

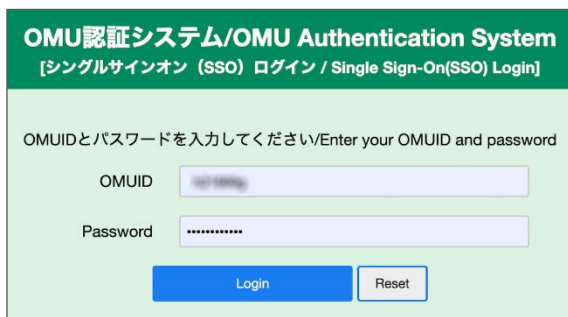
< Microsoft 365 Copilot へのアクセス >

① 下記webページにアクセスし、(自分のOMUID)@omu.ac.jp のアカウントを選択。

<https://m365.cloud.microsoft/chat/?auth=2&home=1>



② 本学の認証画面が現れるので、OMUIDとパスワードを入力しログイン。



③ Copilotの画面が表示される。(右図)

「**緑色の盾のチェックマーク**」が表示されていることを必ず確認すること

↓
大学が契約したCopilotにアクセスしており、データが安全に取り扱われていることを示す。

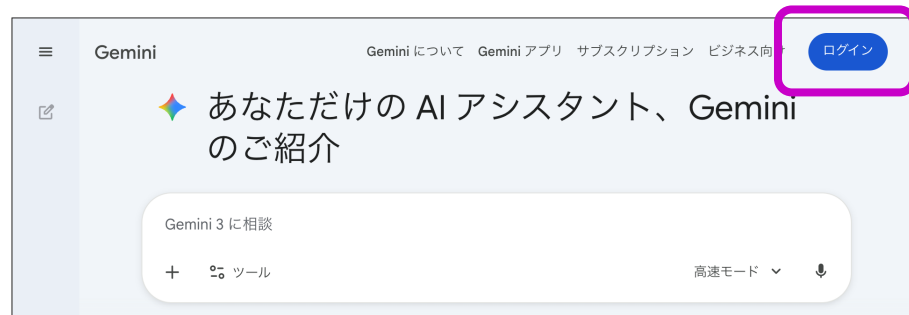


2. 利用ツール

< Google Workspace Gemini へのアクセス >

- ① 下記webページにアクセスし、右上のログインボタンをクリック。

<https://gemini.google.com/?hl=ja>



- ② (自分のOMUID)@omu.ac.jp のアカウントを選択。



- ③ 本学の認証画面が現れるので、OMUIDとパスワードを入力してログインすると、Geminiの画面が表示される。(右図)

「omu.ac.jp によって管理されています」と表示されていることを必ず確認すること

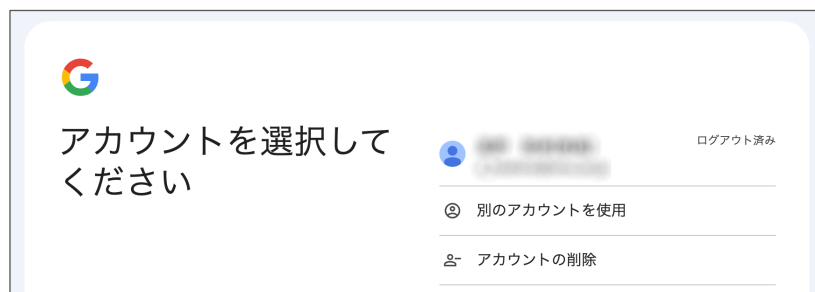


2. 利用ツール

< Google Workspace NotebookLM へのアクセス >

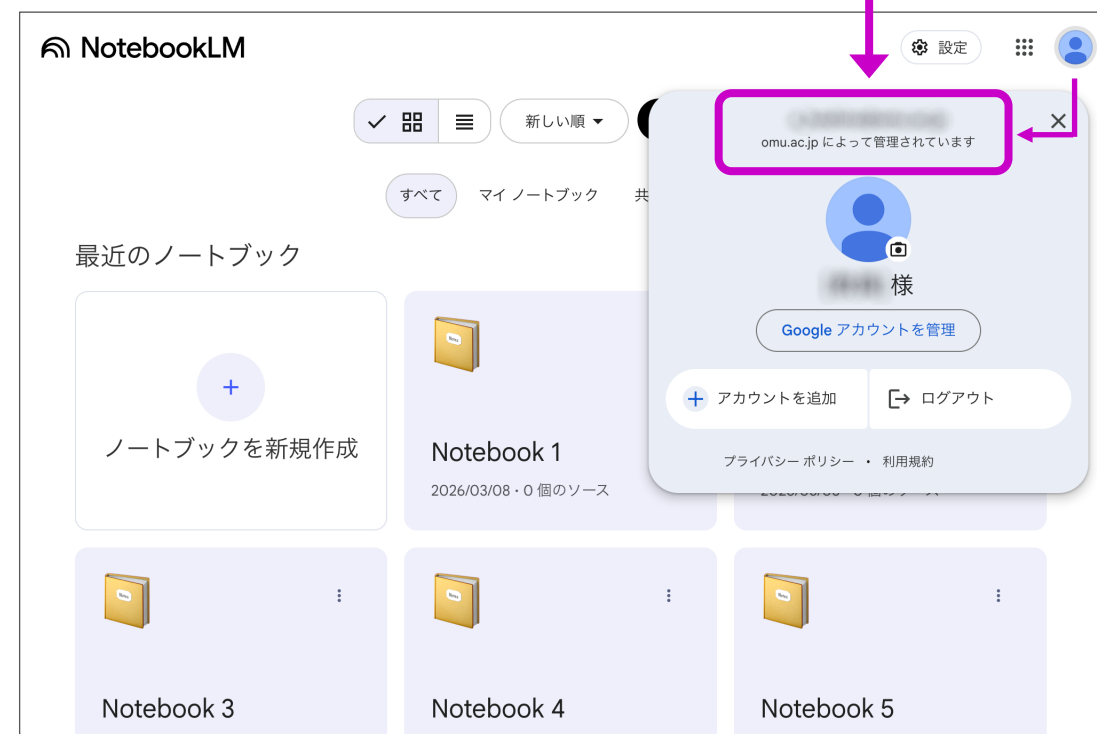
- ① 下記webページにアクセスし、(自分のOMUID)@omu.ac.jp のアカウントを選択。

<https://notebooklm.google.com/>



- ② 本学の認証画面が現れるので、OMUIDとパスワードを入力してログインすると、NotebookLMの画面が表示される。(右図)

「omu.ac.jp によって管理されています」と表示されていることを必ず確認すること



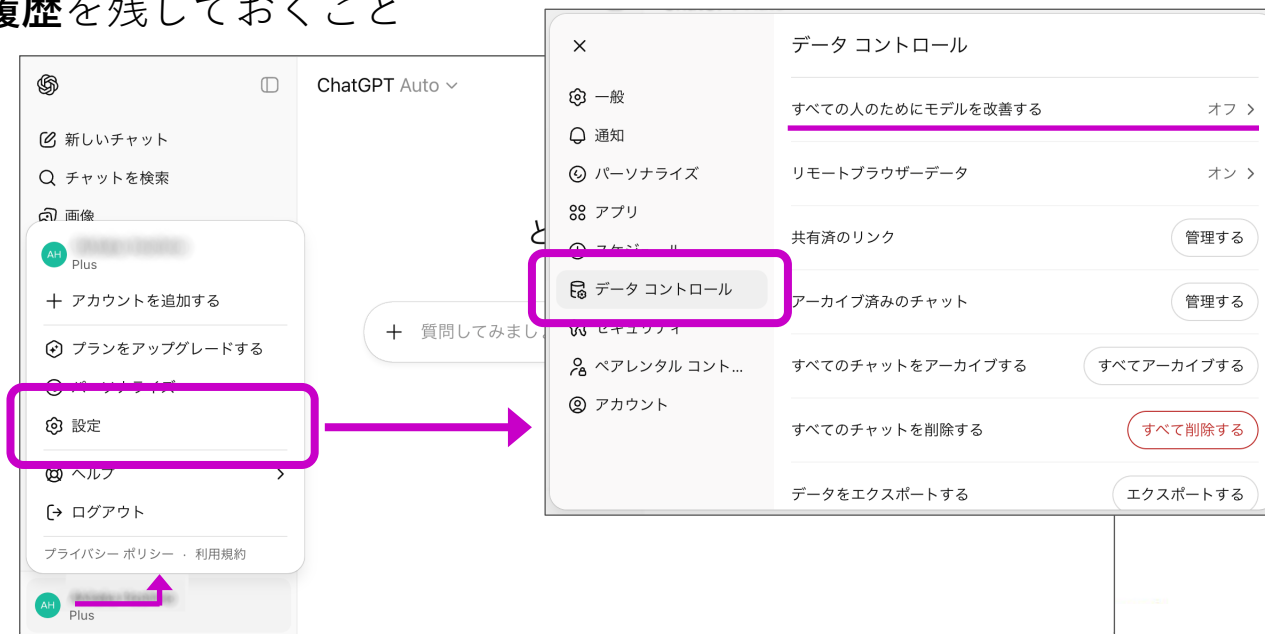
Q. ChatGPTやClaudeなど、他の生成AIツールを使ってもいいですか？

A. 他の生成AIツールの使用は妨げませんが、使用にあたっては以下の点に注意してください。

- **信頼性のあるツール**を使用すること（怪しいツールには手を出さない）
- 「**オプトアウト**」（=入力された情報がAIの学習に利用されず保護される）の設定をして利用すること
- **ログイン**して利用し、生成AIとのやり取りの**履歴**を残しておくこと

（参考）ChatGPTの「オプトアウト」設定

設定画面の中の「データコントロール」パネルにて、「**すべての人のためにモデルを改善する**」を「**オフ**」にする。



3. 活用方法

学びや研究を深めるため、また、その効率を高めるために活用する

生成AIを、単に答えを生成させるための道具、あるいは、代筆の道具として利用するのではなく、「家庭教師」や「壁打ち相手」のように、学びや研究の伴走者としてうまく活用し、学びや研究を深めてください。

推奨される活用例：

- 複雑な概念の要約や、理解度を確認するためのクイズ作成
- 論文構成のアイデア出しや、論理的な矛盾のチェック
- プログラムのバグ修正のヒントを得る

望ましくない利用例：

- 課題を「早く楽に終わらせる」ことだけを目的とした利用

なお、**授業担当教員や研究指導教員から生成AIの利用制限や禁止が指示されている場合は、その指示に従ってください。**

(参考) 生成AIの活用方法が紹介されているサイトのリンク集

- [大学生のためのAI活用アイデア集](#) (Google)
- [大学生向けの100のチャット](#) (OpenAI)
- [Do more with Copilot : Learning & Education](#) (Microsoft)
- [生成AIを用いた倫理的・効率的な英語論文執筆](#)⁰ (関西大学 水本篤 先生)

4. 禁止事項

学問的誠実性に反する利用は行わない

「学問的誠実性」(Academic Integrity)とは、右図に示す6つの基本的価値観を遵守する姿勢のことであり、大学での教育や研究において、正しく行動するための基本原則と言えるものです。

生成AIの利用によって、本来学生自身が行うべき思考や作業をAIに代替させ、それを自分の成果として提出することは、学問的誠実性に反する行為とみなされます。

そのため、レポート、小論文、プログラミングのソースコード等の課題提出において、また、問題への解答や意見提出が求められている場面などにおいて、以下の行為を禁止します。

- 生成AIの出力をそのまま、または、わずかな修正のみで、自分のものとして提出すること
- 生成AIの利用可否・利用範囲が教員から示されている場合に、その範囲を超えて生成AIを利用すること
- 生成AIの利用の申告が必要な場合に、実際とは異なる内容を申告すること

上記の行為を行った場合、不正行為として取り扱われることがあります。

上記以外の場合でも、学問的誠実性に反すると判断されるような利用の仕方はしないでください。

(参考) 本学の授業支援システム Moodleには、提出レポートについて剽窃(いわゆるコピーなど)やAI生成テキストを検知する機能が備わっています。教員から説明を求められる場合もありますので、真摯に課題に取り組んでください。

(参考)

Honesty (正直)	Trust (信頼)	Fairness (公正)
Respect (敬意)	Responsibility (責任)	Courage (勇気)

学問的誠実性における6つの基本的な価値
(International Center for Academic Integrity による)

5. 相談先

利用して良いか迷ったら、授業担当教員 (or 研究指導教員) に相談する

生成AIの利用について、それが学問的誠実性に反するかどうか、自分だけでは判断できない場合、授業に関しては、まず、**シラバス**に生成AIの利用に関する注意がないか確認してください。その上で、**授業担当教員**（研究においては、**研究指導教員**）に相談してください。

（例1）課題レポートを作成する際、生成AIに文章案を作成させ、それを参考にしながら、あらたに自分で文章を作り直すのは許されるだろうか？

レポート作成においては、アイデア出し／情報収集・調査／章立て／文章案作成／推敲などの各段階で、生成AIを活用することが可能です。しかし、生成AIを利用することで、課題を通して身に付けるべき能力が養われなくなる恐れがあります。その課題の意図を含め、どのような使い方なら許されるのか、教員に尋ねてみてください。

（例2）自分は留学生で日本語が得意ではない。母語で書いた課題レポートを、生成AIを用いて日本語に翻訳し、提出して良いだろうか？

日本語による文章作成力を養うことが目的の一つとなっている課題でなければ、教員は認めてくれるかもしれません。あるいは、日本語で書いた文章の推敲になら、生成AIの利用を認めてくれるかもしれません。その課題に対する生成AIの利用の仕方について、教員に相談してみてください。

6. 利用時の注意事項 – プロンプト入力時

生成AIに関する一般的注意事項を踏まえて利用する

生成AIを利用するにあたっては、いくつかの大事な注意事項があります。
ここでは、**生成AIへの指示（プロンプト）を入力する際**に注意すべき事項を挙げます。

①. 原則、公開可能な情報のみを入力する

誤設定・誤操作が原因で、入力した情報が生成AIの学習に利用され、第三者への回答として出力されることを防ぐため、原則、外部に公開されても問題ない情報のみを入力するようにしてください。（**個人情報や秘密情報などは入力しない**）

②. 既存著作物に類似した生成物の出力を求めるプロンプトは入力しない

プロンプトで指示して既存著作物に類似した生成物を生成AIに出力させた場合、著作権侵害となる可能性があります。既存の著作物に類似する生成物に繋がるようなプロンプトは入力しないようにしてください。

（NG例）

- ・「村上春樹の文体そのまま、新しい短編小説を書いて。」
- ・「スタジオジブリのアニメ映画そのままの画風で、森を歩く少女のイラストを描いて。」

③. 公序良俗・社会倫理に反する利用はしない

他人を誹謗中傷する文章の出力を求めたり、拳銃の作り方を教えてもらおうとしたり、といった公序良俗・社会倫理に反する利用はしないでください。

6. 利用時の注意事項 – 生成物利用時

生成AIに関する一般的注意事項を踏まえて利用する

生成AIを利用するにあたっては、いくつかの大事な注意事項があります。
ここでは、**生成AIからの出力（生成物）を利用する際**に注意すべき事項を挙げます。

①. 生成物（出力文章）の信憑性を確認する

生成AIからの出力文章は、**誤り（ハルシネーション）を含む可能性**があります。また、**偏った価値観・倫理観が反映されている恐れ**もあります。**実在しない論文や資料が引用文献として挙げられていること**もしばしばです。出力を鵜呑みにせず、**根拠とされている一次情報や信頼できる資料を用いての正確性の検証や、出力内容の批判的な検討**を必ず行なってください。

②. 生成AIによる生成物を利用していることを示す

部分的にであれ、生成物を利用した作品（課題レポートや、プログラムのソースコードなど）を公開（教員への提出を含む）する場合には、**生成AIを利用したことを、どのように利用したかも含め、作品内で明示**するようにしてください。**教員から形式の指示がある場合は、それに従ってください。**

- （例）・「本レポートの文章表現の推敲にあたり、生成AI（Gemini）を利用した」
- ・「ChatGPT（2026年3月利用） 用途：文章の推敲」

Q. 授業で配布される講義資料や、教員が紹介したインターネット上の資料を、生成AIに読み込ませて自分の学習に利用してもいいですか？

A. 原則として、下記の条件を満たしていれば、他人の著作物であっても、生成AIに読み込ませて自分の学習に利用することは問題ありません。（例：要約してもらう、理解度を確認するためのクイズを作ってもらう等）。

- 授業担当教員が、生成AIへの配布資料の読み込みを禁止していないこと
- 生成AIに読み込ませることを契約や利用規約で禁止しているコンテンツが含まれていないこと
- 個人情報（氏名、学籍番号など）が含まれていないこと

なお、生成AIが作成した文章や画像（生成物）を、他人と共有したり、レポートに含めて提出するなど**他者に公開する場合には注意が必要**です。生成物の内容によっては、元となった著作物の表現が残っていて、**著作権侵害となる可能性**があります。

(参考サイト) [「AIと著作権について」文化庁](#)

7. チェックリスト

最後に、本ガイドラインの内容を、チェックリストとしてまとめました。ご活用ください。

(利用)

- 本学が提供する生成AIツールを、公式Web/公式アプリにて本学アカウントでログインして利用している
- 本学が提供したものでない生成AIツールを使う場合は、信頼性のあるツールを、オプトアウト設定した状態で、ログインして利用している
- 生成AIとのやり取りの履歴を消さずに残している

(活用)

- 課題を「早く楽に終わらせる」ためでなく、学びや研究を深めるため、また、その効率を高めるために生成AIを活用している

(禁止)

- 生成AIの出力をそのまま（あるいは一部改変だけして）、自分の作品（成果物）として提出するようなことはしていない
- 教員から指示された範囲内で生成AIを利用している

(相談)

- どの範囲まで生成AIを利用して良いか迷った時は、シラバスを確認したり、授業担当教員（or 研究指導教員）に相談したりしている

(注意)

- 個人情報や秘密情報は、プロンプトに入力していない
- 既存著作物に類似した生成物の出力を求めるプロンプトは入力していない
- 公序良俗・社会倫理に反する利用はしていない
- 生成AIの出力文章について、根拠とされている一次情報や他の資料を確認し、正確性を検証している
- 生成AIの出力文章の内容について、批判的検討を行なっている
- 生成AIによる生成物を利用した作品（成果物）を公開する場合は、生成AIを利用したことを作品内で示している

